

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成23年8月18日(2011.8.18)

【公表番号】特表2008-508964(P2008-508964A)

【公表日】平成20年3月27日(2008.3.27)

【年通号数】公開・登録公報2008-012

【出願番号】特願2007-525199(P2007-525199)

【国際特許分類】

A 6 1 B 18/14 (2006.01)

A 6 1 B 18/12 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/39 3 1 1

A 6 1 B 17/39 3 2 0

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年6月30日(2011.6.30)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

切削ツールまたはクランプツールの態様で作動できる 2 つの関節式アーム（15、16）と、

血管または組織（40）を把持し、前記血管または組織（40）を凝固させるために前記血管または組織（40）に凝固電流を伝導するために前記アーム（15、16）の遠位端（11、12）に凝固表面（22a、23a）をもつ対向する電極部品（22、23）と

前記凝固電流を H F 発生器から前記電極部品（22、23）へ供給するための電流供給装置（20、21）と

を有する電気外科用器具において、

前記電極部品（22、23）がそれぞれ少なくとも 1 つのクランプ領域（22c、23c）を有し、前記血管または組織（40）をクランプすると、前記血管または組織（40）は前記電極部品（22、23）間にプレテンションが与えられ、前記プレテンションが与えられた血管または組織（40）上で切削器具（30）によって切削処置を実行でき、

クランプ効果を支持する表面輪郭（27、27'）が、前記一方のクランプ領域および／または前記対向するクランプ領域上に構成され、且つ、逆鉤として機能する丸まった突起部として構成され、前記アームがわずかに開いている時に組織がクランプ位置にある前記表面輪郭によって保持されることを特徴とする電気外科用器具。

【請求項 2】

クランプ領域（22c）の一方が少なくとも第 1 中心区間において凸状に湾曲し、当該一方のクランプ領域（22c）に対向するクランプ領域（23c）が少なくとも第 2 中心区間において凹状に湾曲し、したがってアーム（15、16）を一緒にすると、クランプ領域（22c、23c）が基本的に相互内に積極的に嵌め込まれることを特徴とする、請求項 1 に記載の電気外科用器具。

【請求項 3】

クランプ領域（22c）の一方が少なくとも第 1 中心区間において凸状に湾曲し、当該一方のクランプ領域（22c）に対向するクランプ領域（23c）が少なくとも第 2 中心

区間において凹状に湾曲し、凹状に湾曲したクランプ領域（２３ｃ）の曲率半径が、少なくとも第２中心区間において第１中心区間における凸状に湾曲したクランプ領域（２２ｃ）の曲率半径より大きく、湾曲部（２２ｂ、２３ｂ）が前記遠位端（１１、１２）の縦軸を、前記遠位端（１１、１２）間に保持されて前記縦軸に対して直角に延在する組織（４０）が、前記第１および第２中心区間に対して増加する圧縮力で保持されるように迂回することを特徴とする、請求項１または２に記載の電気外科用器具。

【請求項４】

少なくとも１つのクランプ領域（２２ｃ、２３ｃ）が、前記切削器具（３０）用に少なくとも１つの通路（２２ｄ、２３ｄ）を有し、その結果、前記通路（２２ｄ、２３ｄ）の少なくとも１つの区間が、前記切削器具（３０）用の案内開口（２４）として設けられ、前記切削器具（３０）を前記クランプした組織（４０）に適用して、前記切削処置を実行できることを特徴とする、請求項１～３のいずれか一項に記載の電気外科用器具。

【請求項５】

前記通路（２２ｄ、２３ｄ）が前記個々の電極部品（２２、２３）を少なくとも２つの区域に分割し、その結果、前記電極部品（２２、２３）がそれぞれ、相互に平行に配置構成された対向する分割表面（２２ｅ、２２ｅ'、２３ｅ、２３ｅ'）を有することを特徴とする、請求項１～４のいずれか一項に記載の電気外科用器具。

【請求項６】

前記通路（２２ｄ、２３ｄ）が前記個々の電極部品（２２、２３）を少なくとも２つの区域に分割し、その結果、前記電極部品（２２、２３）がそれぞれ、相互に対して配置構成されて、前記凝固表面（２２ａ、２３ａ）の方向に先細になる対向分割表面（２２ｅ、２２ｅ'、２３ｅ、２３ｅ'）を有することを特徴とする、請求項１～５のいずれか一項に記載の電気外科用器具。

【請求項７】

通路（２２ｄ、２３ｄ）が、アーム（１５、１６）が一緒にされた場合に位置合わせされた状態で基本的に相互に隣接する前記対向クランプ領域（２２ｃ、２３ｃ）上に設けられることを特徴とする、請求項１～６のいずれか一項に記載の電気外科用器具。

【請求項８】

前記切削器具（３０）が前記電気外科用器具（１０）に接続するよう構成されることを特徴とする、請求項１～７のいずれか一項に記載の電気外科用器具。

【請求項９】

前記切削器具（３０）を機械的および／または電氣的に起動できることを特徴とする、請求項１～８のいずれか一項に記載の電気外科用器具。

【請求項１０】

前記凝固表面の少なくとも１つに絶縁区間（２８）が構成され、前記凝固表面（２２ａ、２３ａ）間の直接的な電氣的接触を回避できるようにすることを特徴とする、請求項１～９のいずれか一項に記載の電気外科用器具。

【請求項１１】

前記絶縁区間（２８）がいくつかの区画（２８ａ、２８ａ'、２８ｂ、２８ｂ'）から構成されることを特徴とする、請求項１～１０のいずれか一項に記載の電気外科用器具。

【請求項１２】

前記絶縁区間（２８）が構造的に形成されることを特徴とする、請求項１～１１のいずれか一項に記載の電気外科用器具。

【請求項１３】

前記絶縁区間（２８）がセラミックまたはダイヤモンドから構成されることを特徴とする、請求項１～１２のいずれか一項に記載の電気外科用器具。

【請求項１４】

前記絶縁区間（２８）が、特殊部、または前記特殊部または任意のクランプ効果を支持する任意の表面輪郭（２７、２７'）として構成されることを特徴とする、請求項１～１３のいずれか一項に記載の電気外科用器具。

【請求項 15】

前記器具が腹腔鏡器具として構成されることを特徴とする、請求項 1 ～ 14 のいずれか一項に記載の電気外科用器具。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0024

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0024】

クランプ効果を支持する表面輪郭は、鋸歯状輪郭として構成することが好ましい。輪郭の歯は、例えばアームが一緒になり、これを牽引方向に連行する場合に、組織内にさらに届くような態様で配置構成することができる。その結果、組織内の張力が大幅に増加する。しかし、この輪郭によって組織への損傷が回避されることが本質的なことであり、その結果、歯は丸まった突起部として構成することが好ましい。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0025

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0025】

アームがわずかに開いた場合に組織がそのクランプ位置にある輪郭によって保持されるような態様で輪郭を形成することが好ましい。したがって、この輪郭は逆鉤（かえり）の構成として機能する。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0052

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0052】

図 3 では、凹状湾曲部 23b で構成された電極部品 23 は、端区域に歯タイプの輪郭 27、27' を有する。歯は、例えばアームが一緒にされると組織 40 内にさらに到達し、これを牽引方向 Z に連行するような態様で配置構成することができる。その結果、組織 40 内の張力が大幅に増加する。しかし、輪郭 27、27' によって組織 40 への損傷が回避されることが本質的なことであり、その結果、歯は丸まった突起部として構成することが好ましい。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0053

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0053】

アームがわずかに開いた場合に組織 40 がクランプ位置にある輪郭 27、27' によって保持されるような態様で突起部を形成することが好ましい。したがって、輪郭 27、27' は逆鉤（かえり）の構成として機能する。